

## 令和7年度 第3回川崎市社会教育委員会議日本民家園専門部会 議事録

- 1 開催日時 2025年12月14日(日) 10:00～12:00
- 2 開催場所 日本民家園 園内、旧原家住宅
- 3 出席者 委員 高橋部会長、大野副部会長、菅野委員、野尻委員、吉澤委員、  
長谷川委員、今井委員、服部委員、大泉委員  
事務局 阿波園長、藤川担当係長、葉山担当係長、磯山職員
- 4 議題
  - 1) 園内視察(原家・井岡家・佐々木家・佐地家・江向家・野原家・作田家・北村家・  
工藤家を視察)
- 5 傍聴者 0名
- 6 会議内容
  - 1) 園長挨拶
  - 2) 会議成立の確認
  - 3) 配布資料確認
  - 4) 報告事項
    - (1) 秋のイベントについて
  - 5) 園内視察

### <園内視察内容>

#### ●原家

葉山係長：2階のエアコンが壊れており、今冬から工事を開始する。園内の電気配線が移築以来更新されていない家も多く、火災対策の観点から原家、鈴木家、佐地、水車小屋、船越の舞台、伝統工芸館にて電気設備工事を行う。主に照明器具や電気配線を更新する予定である。伝統工芸館は展示古民家ではないが、活用頻度が高く、設備が古くなり藍染めの体験にも影響があるため、来園者用トイレ改修やエアコン設置を併せて行う。そのため今冬から来年度まで、園内各所で工事用の足場がかかる予定である。

阿波園長：電気配線は老朽化すると火災の原因になるため、設備工事を中心に行う。  
原家は仮囲いをして約2か月を目途とし順に行う予定である。

#### ●井岡家

葉山係長：井岡家の耐震補強工事は今年の12月いっぱい終わる予定だったが、梁などに虫害が発見されたため、工期を年度末まで延長した。現在屋根瓦が葺き終わっている。耐震補強の関係で屋根荷重を軽減するため、在来の棧瓦葺きは土で瓦を固定するが、土を最小限にして空葺きと呼ばれる工法に変更している。本来の小舞下地ではなく、石膏ボードやベニヤで強化した壁を、ウィークポイントに設けている。バットレスという鉄の柱を2本立て、家全体を支える。バットレスの鉄骨に水が当たると家への水撥ねに繋がるため、庇をつける予定である。また、現在かまどを復旧中で下地を作っている。

野尻委員：庇について詳しく聞きたい。

葉山係長：バットレスの上に金属でできた庇を作る予定である。後付けの補強材だと分かるようにする。

大野副部長：もう一方のバットレスにも庇を設置するのか。瓦はほぼ採用か。草が生えて野地がやられていることはなかったか。

葉山係長：両方に設置予定である。コンパクトにできないか検討している。瓦は背面以外は採用で、凍て割れがあったため打音調査をした。野地は無事だったが、移築時に解体から組み立てまで時間がかかったため、梁と梁が接していたと思われるところで朽ちてきていて、対処に時間がかかった。

大野副部長：妻壁は塗り替えるのか。

葉山係長：補強が関係ないところは残し、それ以外は塗り替える。最小限の壁の解体にした。

#### ●佐地家

葉山係長：シロアリ調査のため、餌を地面に埋めている。シロアリがいると分かれば毒餌にかえて駆除する。月一の頻度で調査している。園内で68か所設置中。

大野副部長：シロアリは結構いるのか。

葉山係長：いるところもあるが、古民家にはいない。

## ●江向家

葉山係長：今年度と来年度、耐震補強に向けた実施設計をやっている。今年度は補強方法の工法を固めるまでを目標にしている、来年度は文化財としての保存修理の中身を決める予定である。補強内容は第三者機関である評定委員会と耐震委員会で補強案を検討し、構造設計の方に委託をして行う。先日最終評定が取得できたため、来年度の保存修理の設計等を検討していく。極力普段公開しない部屋に鉄骨を立てる。また、強度の計算も成り立ったため1か所だけ外にバットレスを設置する。一度揚屋し、地盤の基礎工事をして耐圧盤を打ってから鉄骨を立てる。梁の下で枠を組み、ブレースで繋ぐ。筋違は配置せず済むため、目立たないように出来る。

野尻委員：枠は鉄骨か。国庫補助でやっているのか。

葉山係長：鉄骨の枠である。すのこ状の床の下あたりに枠が組まれる予定である。枠をつける際、梁などの部材にボルトなどを刺さずに済むように、梁の上から枠を被せる形で取り付ける。工事は国庫補助で、設計は単費でやる。

菅野委員：枠はすのこ天井の上か下か？

葉山係長：下である。ちょうな梁の上にある塗工している梁の上にかぶせることになる。焦げ茶色にし、照明器具で目立たないようにする。

服部委員：鉄骨の位置が偏っているように見えるが、大丈夫なのか。木の部分で支えている形か。

葉山係長：鉄骨が全体に分布されなくても、地下に打ってある盤から建つ柱でどこかが支えられていれば良い。木部を枠で繋ぎ、枠と鉄骨を緊結するため、柱の位置は違うが保持はしている状態である。構造計算の結果も問題はない。内部の雰囲気なども考えて鉄骨の位置を決めている。

## ●野原家

葉山係長：工事入札が終わり、レベルの測定などの調査に入っている。2月から足場を立て始め、3月半ばにはトレンチ調査、屋根の解体を始めて、来年度の夏頃には終わる予定である。かなり環境が悪いこともあり、背面の屋根の破損が激しく、差し茅を続けてきた。梁などに破損が見つかり、工期が伸びる可能性もある。屋根をめくり荷重が軽くなる際に、沈下している下屋の部分を水平に是正したい。

阿波園長：仮囲いの関係で、工事期間中は園路が狭くなる予定である。山下家横の通路を使い二方通行にする予定である。

## ●作田家

葉山係長：救急車両が通れるように、石橋の横にコンクリートの橋を作る。最終的に広瀬辺りまで救急車両が入れるようにルートを延ばそうと思っている。コンクリートを打つのは来年になる。消火栓や土蔵の屋根の形もそのために調整した。

#### ●北村家

葉山係長：土系舗装に変更した。東屋の屋根を葺き替え、杉皮葺から金属板葺に変えた。ベンチを木から擬木にし、分岐盤の小屋には礎石をつけ、シロアリが好む丸太をやめて虫がつかず腐りにくい加工木材へ変えた。今までなかった排水溝を整備し、地盤面に勾配をつけて水が外に出るようにした。屋内は現状のままだが、防火対策について文化庁からの指導により、一般人目につかない部屋に炎検知器をつけた。補助事業ではなく単費である。

大野副部長：裏に支柱は立てたのか。

葉山係長：丸太で斜めになっていたところを真っすぐに立て直した。平板を使い後付けだと分かるようにした。軒が長く、屋根が荷重でたわむのでそのための補強である。

#### ●工藤家

葉山係長：来年度、屋根葺き替え部分修理・外構整備の設計を行い、9年度に工事をする予定だが、耐震補強を伴わないため国庫補助の対象外で、単費となる。他と比べて屋根の差し茅を多数回してきたが、垂木の欠損も進んでいて差し茅に耐えられないため、全面葺き替えをする。背面からの湿気が家の中に入ってきて床板もふやけてきているので、外構の整備もする。土系舗装ではなく、芝生のような形で考えている。雨水によって周囲の土が流され、犬走の段差がなくなり配管等も出てきている状況である。併せて便所の補修もする予定である。大規模修理になるため、配線などの電気工事や消防設備も併せて行う。

大野副部長：垂木が結構折れている。古いものはなるべく添えて、新しいものを継ぐのはどうか。

葉山係長：今回、屋根下地の補修が課題である。工藤家は岩手県の民家で、垂木が竹ではない。丁度良い自然な丸太の垂木がなかなか手に入らない。折損したところを継ぐにしても添え木が角材では良くない。

大野副部長：例えば材料がなければヒノキ丸太を添え木にして、軒先のところは元の垂木を出すのも良いかもしれない。木が虫に食われて折れている可能性もあるため、見極めながらやっていくのが良い。垂木の破損箇所が増えてきており、茅だけが問題ではなく丸太自体が弱っていきそう。

葉山係長：本当は補助を貰えばいいが、江向家で耐震補強をする関係もあり、工藤家は屋根だけでも早急に工事しなければいけないため単費で行うことを計画している。

#### ●奥門

阿波園長：設計を生田緑地整備事務所と連携して進めている。今年度設計が終わり、来年度から本格的な施工工事をする。近くの池がホトケドジョウの生息地であり、自然環境にも配慮しなければならないため、段々に傾斜を抑えるように考えている。メタセコイアの樹木も残しながらやっていく。

#### ●全体について

菅野委員：博物館の再登録は済んだのか。

藤川係長：再登録はまだ済んでいない。来年度、再来年度を目途に準備をしている。

服部委員：作田の横から車両が通れるようにするということが、昔トイレとして使っていた小屋は壊すのか。壊さなくても通れるのか。

葉山係長：土蔵の庇は、車が当たらないように切って始末しているので壊さない。外トイレと物置は作田家の工事の際に既に撤去済みであり、復旧する予定はない。

服部委員：夜間公開の時に江向家の前のススキが刈ってあったが、工事やライトアップの都合か。また、山下家の日陰部分など、苔が目立っている茅葺は将来的にどうするのか。

葉山係長：ススキについては特に意図はない。除草のタイミングによるのではないかと。株が残っているのでまた生えてくると思われる。山下家は下半分だけ耐震補強工事をして屋根葺替工事はやらなかったが、屋根の損耗も進んできたので順次葺替もする予定である。差し茅補修などもしている。苔よりもキノコの方が屋根を蝕む傾向にあるので様子を見ている。

服部委員：団体ガイドについて、今は全て無料でやっているが、ツアーなど営利目的の利用の場合は料金を設定してもいいのではないかと。時間も特に決めていないが、検討してもいいのではないかと。

阿波園長：料金を取るかどうかの選別が難しい。他の野外博物館の状況も確認しているが、一般的には区別をしているところは少ないようである。

大野副部長：丁度天候が悪い時に視察できたのが良かった。不具合のある場所が分か

るので、休憩場所や寒さなど、お客様目線の課題が分かる。今日の工事の資料は分かりやすくて良い。工事の資料を掲示して情報公開しておく、関心がある人に見てもらえ、園内で見学ができない箇所がある理由や、日常の維持管理の大変さを理解してもらえるかもしれない。また、今回の企画展の図録は非常に良い出来で、貴重な写真が沢山入っており、勉強になる。

阿波園長：図録の方は、五箇山の南砺市観光協会の方からも評価をしていただいております、その影響で、今年度のこきりこ公演の際は自発的に参加して下さる南砺市の方も多かった。

野尻委員：視察は会としては年に1回だが、会自体は年4回あるので、本格的な工事をしているところは普段の専門部会の資料に写真を1枚でもつけてもらえると、工事の状況が把握できるのでは。

阿波園長：写真は撮ってあるため、資料に入れることは出来る。

大泉委員：図録に民家園公式キャラクターのみんながでてくるが、知らなかった。積極的に打ち出すことはしないのか。グッズ展開等は考えていないのか。

葉山係長：打ち出し方の検討が難しい。現状はパンフレットなどで使用している。

藤川係長：民家園の公式ホームページやXでも使用している。グッズ展開はしていないが、今回の企画展に合わせてスタンプラリーを実施しており、五箇山のモチーフとみんなを組み合わせた図案のスタンプを展開している。

高橋部会長：今回の視察で民家の維持管理の大変さについて実感できた。民家の中にある民具も傷んできているようだった。例えば味噌樽や戸棚など、補修については考えているのか。生活実態の展示をするにあたって、建物を綺麗にしても中にある道具が古くなって壊れているという状況は良くないと思う。

阿波園長：検討していかなくてはいけない事項ではあるが、具体的な対策は出来ていない。例えば太田家の五榜の書などは、本物を置くと劣化が進んでしまうため、レプリカなどにしてはどうかという意見もある。

大野副部会長：かつては大工を引退された方が通ってくれて、ボランティアで民具の調整をしてくれていた時期があった。登戸新町のあたりに職人さんが多く、民家園の佐々木家前で工芸を見せていたこともあった。川崎はマイスター制度で様々な職人の方を顕彰しているので、相談して、手入れをしてもらうことはできないか。民具製作技術保存会の方にお願ひし、竹すのこな

どは竹グループに、わら細工などはわらグループに協力してもらえないか。維持しているところも見せていけると良い。

菅野委員：江向家の味噌樽のたがが外れ、ニワの戸棚の板も外れていた。たがを締め直すくらいならば、民技会の方で出来るのでは。また、高倉のゼブラゾーンの色が落ちていた。

服部委員：広瀬の屋根が低く、上に気を付けると今度は下に躓いてしまう方がいる。目立たない程度に注意書きがあってもいいのではないか。

長谷川委員：みんかっぱを注意してほしいところに置いて面白いのでは。園内は色彩を抑えてあるので、みんかっぱのデザインは注意を引ける。親子連れの方にも分かりやすく、親しみやすいと思う。

葉山係長：建物として写真を撮るという観点からは、注意書きだらけにはしたくない。例えば古民家の内部の明るさにしても、暗くて転ぶから明るくするというにすると昔の暮らし方を伝えることが難しくなってしまう。園路を平らに整備したが、転ぶ方は一定数いるため、ゼロにすることは難しいのではないか。注意喚起できる場所は、工夫して検討していきたい。